

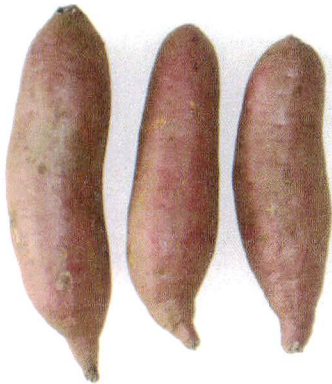
# サツマイモの優良品種‘べにはるか’について

野菜作物研究部

近年、直売所などでサツマイモの需要が増え、地場産ニーズが高まっています。本県では、外観と食味に優れる‘ベニアズマ’を中心に栽培されてきましたが、より食味や食感の優れる品種が要望されています。

そこで農業技術センターでは、現在、農林水産関係独立行政法人の研究機関などで育成されたサツマイモ新品種・系統の特性検定試験を行っています。

今回はその中から、昨年度有望品種とした‘べにはるか’についてご紹介します。



‘べにはるか’は平成19年に(独)農研機構九州沖縄農業研究センターで育成された品種です。イモの形状は紡錘形で皮は赤紫(図1)、肉質はしっとりとして甘みが強く、食味は優れます。所内の試験での収量性は‘ベニアズマ’に劣りますが、西日本の主要品種‘高系14号’より優れます。

栽培上の注意としては、①切り口から出る乳白液が多く、外観を損ね易い(図2)、②早掘り栽培で収量が低い等が挙げられます。

種苗の販売は既に始まっていますので、栽培を希望される方はお近くの種苗販売店などにお問い合わせください。

図1 ‘べにはるか’の外観



図2 乳白液による汚損

表 収量性(平成18年~20年度平均)

品種名	総いも重 (kg/a)	上いも重 (kg/a)	上いも 1個重 (g)	1株 上いも 個数
べにはるか	395	329	209	4.5
ベニアズマ	397	366	234	4.5
高系14号	262	221	263	2.7

# ニホンナシ有望系統の育成経過と特性

果樹花き研究部

ナシの主要品種‘幸水’の収穫期はお盆以降であり、現在‘幸水’より前に収穫できる‘新水’‘筑水’などは収量性・栽培性の面で問題があります。そのため、贈答用の需要がある盆前に収穫される大玉・高糖度品種の育成が望まれています。

農業技術センターでは平成7年からナシの新品種育成に取り組んでおり、その中から、平成10年に交配した早生・大玉・高糖度の3系統(4-5-4、11-9-5、11-12-5)を有望と判定しました。

4-5-4は7月下旬から8月上旬に収穫され、極早生としては肥大良好で、果肉は柔らかく、香りがあります。

11-9-5は8月上旬から中旬に収穫される外観の良い大玉系統で、糖・酸のバランスが取れ、食味良好です。

11-12-5は8月上旬から中旬に収穫され、大玉・高糖度で酸味はなく、肉質良好です。

この3系統のうち、4-5-4と11-9-5については、盆前に収穫できる有望品種として品種登録出願の準備を進めています。11-12-5については収穫期が一部‘幸水’と重なるため、栽培上の特性や収量性について更に検討を行っています。

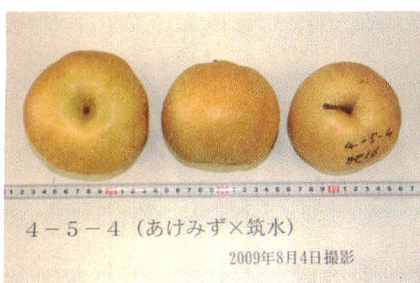


図 4-5-4

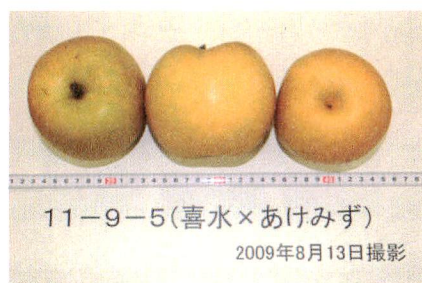


図 11-9-5

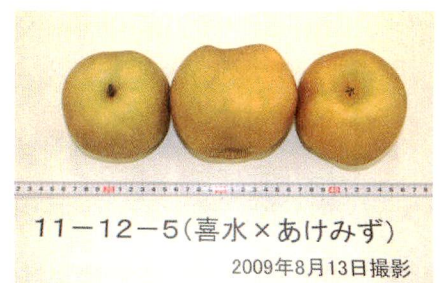


図 11-12-5